

統計

2018年から2022年までに行った自家末梢血幹細胞移植の疾患別症例数。

	悪性リンパ腫	多発性骨髄腫	急性白血病	計
2018年	3	8	0	11
2019年	0	0	0	0
2020年	0	0	0	0
2021年	0	0	0	0
2022年	0	0	0	0
計	3	8	0	11

2018年から2022年までに行った同種造血幹細胞移植の症例数。

造血幹細胞の種類による分類

	血縁者間		非血縁者間		非血縁 臍帯血	計
	骨髄	末梢血	骨髄	末梢血		
2018年	5	1	5	0	0	11
2019年	1	0	8	0	0	9
2020年	1	0	8	0	3	12
2021年	1	0	7	0	0	8
2022年	2	0	6	1	0	9
計	10	1	34	1	3	49

移植前治療の強度による分類

	骨髄破壊的(フル)	骨髄非破壊的(ミニ)	計
2018年	4	7	11
2019年	3	6	9
2020年	3	9	12
2021年	4	4	8
2022年	2	7	9
計	16	33	49

対象疾患による分類

	急性骨髄 性白血病	急性リンパ 性白血病	慢性骨髄 性白血病	悪性リ ンパ腫	多発性 骨髄腫	骨髄異型性 症候群	成人T細胞 性白血病	計
2018年	3	3	0	5	0	0	0	11
2019年	6	0	0	3	0	0	0	9
2020年	7	2	2	0	0	1	0	12
2021年	6	0	1	1	0	0	0	8
2022年	5	2	0	2	0	0	0	9
計	27	7	3	11	0	1	0	49

## 治療成績

### 急性白血病

2013年1月から2022年12月までに当センターにおいて、123名の初発の急性骨髄性白血病の患者さん（年齢17歳から86歳、中央値58歳）と33名の初発の急性リンパ性白血病の患者さん（年齢20歳から78歳、中央値58歳）に対して多剤併用の化学療法を行いました。完全寛解が得られたのは急性骨髄性白血病123名中95名（77.2%）で、急性リンパ性白血病33名中29名（87.9%）でした。寛解導入療法中あるいは強化・地固め療法中の治療関連死亡は7名（4.5%）にみられました。

#### 急性骨髄性白血病

5年全生存率は44.4±5.0%、5年無増悪生存率は38.4±4.7%でした。

#### 急性リンパ性白血病

5年全生存率は48.2±10.2%、5年無増悪生存率は33.9±10.1%でした。

### 同種造血幹細胞移植

2018年1月から、2022年12月までに当センターにおいて、49名の患者さん（年齢18歳から69歳、中央値56歳）に対して同種造血幹細胞移植を行いました。移植後100日以内の治療関連死亡は8名（16.3%）、非再発死亡は計12名（24.5%）に見られました。

3年全生存率は46.4±7.9%でした。